

<今日の説教のポイント ルカによる福音書2章1～21節 >

1 (1-7) 大きな力に翻弄される庶民。その中に送られた救い主。

ここを読むといつも思います、「今の世も同じだな」と。大きな力を持つ独裁者や政府が弱い力しか持たない庶民を苦しめています。「神様はどうして何もされないのだ」、と思うかもしれません。しかし神様はなされています、その苦しめられている者たちの中に独り子を送られた、と聖書は告げるのです。そこに込められた神様の恵みを考えなければならぬのです。

2 (8-14) しかし、庶民にはもっと大きな力を持つ神様あり。

次の場面は、7節までの人間世界の様子から天使によって天からある内容を告げられる様子にがらりと変わります。そこで示されたのが「神様のメシア（救い主）の派遣」でした。しかも、それは7節までに記された地上でヨセフとマリアの上に起こりつつある「布にくるまって飼い葉桶の中に寝ている乳飲み子」でした。そして、そのような私たちには非力に思える者の到来が、天使と天の大群によって、喜びに満ちたものであると告げられているのです。初めてここを読むと不思議極まりない話に思えます。しかし、今私たちは、「気に入らない者を力でもって抑え込むことでは平和は実現しない」と強く思われているのではないのでしょうか。ですから、神様がなされた「苦しめられている者たちの中に救い主が非力な赤子として与えられる」出来事の中にこそ、本当の救いの鍵があると思って見つめなければならないのです。ですから、それに私たちが従うか従わないかが次に問われる問題でしょう。この後の内容がそれをはっきりと示しています。

3 (15-20) よって、この神様に従う道を選んだ者の姿ここにあり。

天使はマリア(1:26)とヨセフ(マタイ 1:20)に続き、羊飼いたちに大事なことを告げます。天使は聖書では「大事なことを告げる役割」を担っている存在であり、マリア、ヨセフ、羊飼いたちはそれに従うべきことを私たちに教えてくれる存在です。すると、後に人々にイエス・キリストの重要性を告げる洗礼者ヨハネも天使と同じ役割を担っていますね。神様は今の私たちに聖書を通して、「だから、あなたも彼らと同じ様にイエス・キリストについての福音を聞き入れなさい、そしてまた彼らと同じ様に伝える者となりなさい」と言われているのです。